【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成26年4月24日(2014.4.24)

【公表番号】特表2013-527395(P2013-527395A)
【公表日】平成25年6月27日(2013.6.27)
【年通号数】公開・登録公報2013-034
【出願番号】特願2013-509587(P2013-509587)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｋ　1/226　(2006.01)
Ｆ１６Ｊ　15/08　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｋ　1/226　Ｆ
Ｆ１６Ｊ　15/08　Ｂ
Ｆ１６Ｊ　15/08　Ｈ
Ｆ１６Ｊ　15/08　Ｋ
Ｆ１６Ｊ　15/08　Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成26年3月6日(2014.3.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
環状の本体と、９０°回転するように前記環状の本体に取り付けられるバタフライと、軸線及び側面と主面とを備える動的な封止エレメントを有する環状の金属ガスケットであって、前記環状の本体とバタフライの間に介在されてこれらの一方に属するハウジングに収容される環状の金属ガスケットとを備える弁であって、前記環状の本体と前記バタフライの他方は前記ガスケットの軸線に対して傾いている座部を形成し、前記弁が閉じた位置にあるときに、前記ガスケットの動的な封止エレメントの自由な側面が当該座部に接触し、前記動的な封止エレメントが前記ハウジングにクランプされているばねの静的な封止エレメントに金属シートによって連結されている弁において、
前記金属シートは可撓性であり、
前記動的な封止エレメントは、前記静的な封止エレメントと同じ側に前記ハウジングに接触する第１の部分、及び前記座部と同じ側に第２の部分を有し、前記動的な封止エレメントが前記座部からある距離にあるときに、当該ハウジングと前記動的な封止エレメントの主面との間に隙間が存し、そして
前記可撓性の金属シートは２つの側片部を含み、前記ガスケットがその軸線の方向に圧縮力を受けないときに、リングが前記２つの側片部の間に、前記リングと前記側片部の各々との間に隙間をもって介在されていることを特徴とする弁。
【請求項２】
前記ばねの静的な封止エレメントは前面を有し、前記動的な封止エレメントから最も遠く離れている前記ばねの静的な封止エレメントの前面を介して、前記環状の本体の軸線にほぼ垂直である半径方向の接触圧力が前記エレメントに加えられるように、前記ハウジングに接触していることを特徴とする請求項１に記載の弁。
【請求項３】
前記主面の前記第１の部分は、圧力が上流側から下流側に向かって向けられるにせよ、

その逆にせよ、前記動的な封止エレメントが前記座部に適用されるときに、円形の線に沿って前記ハウジングに適用されることを特徴とする請求項１に記載の弁。
【請求項４】
前記第１の部分と前記ハウジングの円形の接触線（Ｘ）または（Ｙ）は、圧力が、（Ｘ）の場合に上流側から下流側に向かって向けられるか、（Ｙ）の場合にその逆に向けられるにせよ、それに従って、前記座部に最も近い面へよりも、前記座部から最も遠く離れている前記動的な封止エレメントのその面により近いことを特徴とする請求項３に記載の弁。
【請求項５】
前記金属シートは可撓性の波形を有し、前記可撓性の波形は外側に向かって面する凹状側部を有していることを特徴とする請求項１に記載の弁。
【請求項６】
前記ハウジングは、その開口と同じ側にセットバックを備え、前記動的な封止エレメントは前記セットバックに直角にのみ延びていることを特徴とする請求項１に記載の弁。
【請求項７】
前記動的な封止エレメントは、その自由な側面の反対側に、前記セットバックに接触しているビードを有していることを特徴とする請求項６に記載の弁。
【請求項８】
前記金属シートの一縁部は、前記動的な封止エレメントにクリンプされていることを特徴とする請求項１に記載の弁。
【請求項９】
前記動的な封止エレメントと前記座部との間の接触面は、凸状側部が前記座部に向かって面する丸味を帯びたリップ部を備えていることを特徴とする請求項１に記載の弁。
【請求項１０】
前記丸味を帯びたリップ部は、前記動的な封止エレメントの縁部の幅の１０分の１から８分の１を表す半径Ｒを有する半円環形状であることを特徴とする請求項９に記載の弁。
【請求項１１】
２つの丸味を帯びたリップ部があり、凹所が前記動的な封止エレメントにおいて前記２つの丸味を帯びたリップ部の間に機械加工され、前記凹所の深さが前記ガスケットの縁部の幅の２０分の１から８分の１までを表していることを特徴とする請求項１０に記載の弁。